

(第一号議案)

令和4年度 事業経過報告

本年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、事業運営上大きな影響を受けました。「グループホームながしま」では、第七波の渦中8月、望ユニットにおいて入居者8名と従業員6名の14名のクラスター感染が発生、陽性者をホテル、施設内療養にて隔離対応する事態が発生しました。介護保険事業については、佐藤病院グループ各施設との連携強化を強化、前期入居率は97.14%、前年比1.34%の上昇、介護保険事業収益は130.3百万円（以下百万円はMと表記）前年比2.6Mの増加、その他利用料収入で3.1M、前年比1.5Mの増加となりました。費用面では、人件費増加が2.1M、事業費増加が1.0M、事務費増加が1.1Mと4.6Mの増加に転じています。コロナ感染防止にかかる諸費用の増加と、物価高、資源高を併せた経費増加が事業収益を大きく圧迫する状況にあります。最終的にはコロナ関連補助金3.5M、処遇改善支援補助金1.4M等の雑収益8.8Mの計上もあり、最終経常増減差額は7.9M（前年比△4.4M）となりました。

次に企業主導型保育事業「キッズプラザながしま」では、毎月行事で「身体測定」「避難訓練」「園外保育」「食育」「誕生日会」等を実施、加えて上半期「苗植え」「七夕会」「夏祭り」、下半期「遠足」「みかん狩り」「ハロウィン」「七五三」「クリスマス」「ひなまつり」「お別れ遠足」と精力的に行事を実施しました。

事業環境面では ICT 技術を活用した「はいチーズ！システム」を導入。保育士の日報作成作業、保護者との連絡手段の ICT 化を実現、作業効率、情報伝達力、コミュニケーション機会の充実等、事業運営を効率的かつ充実すべく改善しました。前期の利用率は期初の保育児童数が19名（定員30名）と低調なスタートでした。その後、佐藤病院グループの産休明け職員が増加、期末3月には満員30名に復活したものの、一年を通じた稼働率は49.3%（対前年比△9.9%）と低調に推移、通年の保育事業収入は58.2M、前年比△4.0Mの減収となりました。費用面では、人件費増加が5.6M、事業費増加が0.9Mと大きく上昇、最終経常増減差額は0.4Mとなり、対前年比△13.6Mと大幅な減収になっています。令和5年度は定員満員状態が続くことから、今期の不振を挽回する見込ですが、満員に対応する保育士確保（特に15時以降の確保）と保育品質の維持が今後の課題となります。

以上、社会福祉事業、公益事業、収益事業を併せたサービス活動収益は189.4M（対前年比△1.5M減少）、サービス活動費用は191.4M（対前年比14.6M増加）となり、サービス活動増減差額（経常収支）は△1.9M（対前年比△16.1M）と大幅な減益、雑収入9.9Mを算入した経常増減差額は7.9M（対前年比△9.7M減少）となりました。（うち、過年度助成金返還が1.6M）

諸物価高騰の中、賃上げも行い、安定収益の維持は非常に厳しい状況下ですが、現場を支える優秀な介護職、保育職の人財確保は事業継続の最大課題です。今後も職場における物理、心理両面での労働環境の整備、改善に一層注力、従業員満足度を高め、質の高い介護・保育サービスの維持向上に努めてまいります。

施設利用者、働く者の幸福度を高めることで地域社会全体の社会福祉活動の発展向上に努める所存です。

以上